

トリクロロ酢酸評価書（案）の概要

1. 知見の概要

(1) 発がん性

ヒトに対する慢性的に経口曝露された時の毒性や発がん性に関する知見は報告されていないが、マウスにおいて、発ガン性が認められていることから、ヒトでの発がん性の可能性については否定できない。

(2) 遺伝毒性

ほとんどの *in vitro* 試験及び *in vivo* 試験の結果から、遺伝毒性を有する可能性は極めて低いと考えられる。

2. TDI の算出

ヒトでの発がん性の可能性について否定できないこと及び遺伝毒性を有する可能性は極めて低いと考えられることから、「ヒトに対する経口発がんリスク評価手順」に従い、非発がん影響に基づく TDI 及び発がんに基づく TDI 算出が適切であると判断。

<非発がん影響>

マウス 104 週間慢性毒性試験

マウス 104 週間飲水投与試験で得られた肝変異細胞巢の発生頻度の上昇から、LOAEL 6 mg/kg 体重/日を算出し、不確実係数 1,000（種差 10、個体差 10、LOAEL の使用及び生殖・発生毒性試験に関するデータ不足 10）とし、TDI を 6 µg/kg 体重/日と設定。

<発がん影響>

マウス 104 週間慢性毒性試験

マウス 104 週間飲水投与試験で見られた肝臓の腫瘍発生頻度及び腫瘍発生個数の上昇から、LOAEL 58 mg/kg 体重/日、NOAEL 6 mg/kg 体重/日を算出し、この NOAEL に基づいて、不確実係数 1,000（種差 10、個体差 10、発がんの可能性について 10）を適用して、TCA の発がんに関する TDI を 6 µg/kg 体重/日と設定。